

Withコロナと防災活動

7月3日、5段階の警戒レベルで最も高い「**緊急安全確保・警戒レベル5**」が発令された。神奈川県平塚市では、8万8979世帯19万8690人を対象に発令され、複数の河川洪水による浸水被害が発生した。また、大規模な土石流が発生した静岡県熱海市では、発生(10時半頃)時、熱海市内には避難レベルのうち**レベル3**の「**高齢者等避難**」情報が出ていましたが、**レベル4**の「**避難指示**」は発令されていませんでした。熱海市が警戒レベルの最も高い「**緊急安全確保・警戒レベル5**」を市内全域に発令されたのは、土石流発生から35分後の午前11時5分でした。

先月号で『市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、**警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません**』と伝えましたが、予測の付かない災害はやはり段階を踏まずに一気に**警戒レベル5**になってしまうことを目の当たりにしました。

今までは、次第に雨が強くなり、避難準備・避難勧告・避難指示と順番を守るかのような自然の荒ぶり方でしたが、今回の災害から考えると一気にしかもピンポイントのような小さなエリアをターゲットに狙う落雷のような災害因(災害の原因)となっています。昔から「**ゲリラ豪雨**」という名前で恐れられていた雨が、現在では「**線状降水帯**」と点ではなく線で襲いかけてきます。**線状降水帯**とは、次々と発生する**発達した雨雲(積乱雲)**が列をなし組織化した**積乱雲群**によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出されます。線状に伸びる長さ50~300km程度、幅20~50km程度の強い降水をとまなう雨域を**線状降水帯**といいます。いわば「とてもタチの悪い入道雲の積乱雲集団」です。夕立の雷というような風情のあるものではありません。とんでもなく恐ろしい積乱雲集団です。この線状降水帯が原因となつて近年



では、平成24年7月九州北部豪雨、平成25年8月秋田・岩手豪雨、平成26年8月豪雨による広島市の土砂災害、平成27年9月関東・東北豪雨、平成29年7月九州北部豪雨、平成30年7月豪雨(西日本豪雨)、令和2年7月豪雨(熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で発生した集中豪雨)が発生しました。

これらのような豪雨災害等に対応するにはどうすれば良いのでしょうか?**そのヒントは?**

ステップ1:市町村の発行する「**ハザードマップ**」で自分の地域はどのような災害が発生する可能性があるのかをまずは確認しましょう。これは正しい情報源からの正しい情報の取得方法で、ウワサやデマに踊らされない方法とも言えます。

ステップ2:「**ハザードマップ**」で得られた情報から、自分の周囲で何が起こるのかを想定します。ここでも想定方法としては、あなたひとりで考えるのではなく、地域の自主防災組織や町内会・自治会といった単位で専門的な知識を有した市町村職員や防災士などの意見を取り入れて「**被害想定**」をしてみることで、これは**災害図上訓練DIG**ともいわれる防災訓練で、自分の地域を俯瞰して見ることで、今までに自分ひとりでは気が付かなかったこと、特に「**危険な場所**」が見えてきます。**グリーンシティ防災会では、2005年から災害図上訓練DIGを取り入れて、防災訓練をしています。是非、次回開催の時にはご参加を!**

ステップ3:ここからが大変です。知り得た「**危険な場所・不具合箇所**」を如何に減らすかが最大の目的となります。しかしこれらは直ちに「**できること**」と「**できないこと**」に二分されます。言い方を変えれば「**やる気**」と「**予算**」です。これらはその年に改善できるものもあれば、長期的な計画(長期修繕計画)を立案し、地域の方々に必要性を周知し納得いただき実現できるものもあります。なぜ危険なのか、どのような不具合があるのか、どんな危険が想定されているのかななどを適切に説明できなければなりません。

ステップ4:改修改善が終了しても、これで終わりではありません。次世代への申し送り、語り継ぎも重要な防災活動です。これを忘れてしまうと、再び悪化の繰り返しとなってしまいます。

ステップ5:大切なことがあります。役員や理事がやれば良いのではなく、みんなが安全安心の確認を日々おこない、誰かが守るまちではなく、誰もが守り合うまちづくりを創り上げていくことが大切です。

最重要行動:日頃から挨拶があふれ、お互いに声掛けができ、災害という非日常が発生しそうな場合は、みんなで情報を入手共有し合い、お互いが助かる努力をすることです。

日常の大切さ:「今日は雨が降りそうですね」「良いお天気ですね」「暑いですね」「冷えますね」等と、**ちょっとした天気の確認も大切な防災活動なのです。**

あいさつ運動



それぞれの警戒レベルに相当する情報を、早めの避難行動の判断に役立ててください。
 市町村からの避難指示等の発令に留意するとともに、避難指示等が発令されていなくとも自ら避難の判断をしてください。
 警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。警戒レベル3や4の段階で避難することが重要です。

警戒レベル	住民がとるべき行動	市町村の情報	警報等	警戒レベルに相当する 気象庁等の情報	指定河川 洪水予報
5	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保 <small>※必ず発令される情報ではない</small>	大雨 特別警報	キキクル (危険度分布)	氾濫発生情報
<警戒レベル4までに必ず避難！>					
4	過去の重大な災害の発生時に匹敵する状況。この段階までに避難を完了しておく。 台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	避難指示	土砂災害 警戒情報	極めて危険※2	氾濫危険情報
	危険な場所から 全員避難				
3	危険な場所から 高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	高齢者等避難	大雨警報※1 洪水警報	非常に危険	氾濫警戒情報
	危険な場所から 高齢者等は避難				
2	自らの 避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。		大雨注意報 洪水注意報	注意 (注意報級)	氾濫注意情報
1	災害への心構えを 高める		早期 注意情報 (警報級の 可能性)		



* 防災気象情報と警戒レベルの対応の詳細については、ホームページをご覧ください。
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/alertlevel.html>

※1 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、高齢者等避難(警戒レベル3)に相当します。

※2 「極めて危険」(濃い紫)が出現するまでに避難を完了しておくことが重要であり、「濃い紫」は大雨特別警報が発表された際の警戒レベル5 緊急安全確保の発令対象区域の絞り込みに活用することが考えられます。